

インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) マワタリカズヒロゼミナール
文京学院大学	経営学部	馬渡一浩ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ) オカイモハン	フリガナ) ヨコヤマヒロト	6	無	
お買い物班	横山弘人			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

研究テーマ（発表タイトル）

世代間交流～人生 100 年時代に向けて～

※必ず「企画シート作成上の注意」を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

本研究は、「ノーケア・ケア」をコンセプトとした世代間交流を通じて、高齢者、大学生、小学生に対し、人生 100 年時代に向けて求められる新たな体験や認識、心身の状態等を獲得してもらうことを目的（図-1）に、実証的に行ったものである。

	目標・1	目標・2	目的
高齢者	交流の場を作り役割を与える	マルチステージをふまえ、 自分の将来を意識させる	社会的健康を提供し、 心と体の健康につなげる
大学生	大学生が主体となって 高齢者と関われる場を作る		マルチステージを実行し、 人生 100 年時代を生きる
小学生	支え合いの場を見せる		支え合いを理解し行動してもらう

図-1 本研究の目的と目標

高齢者には、社会的健康を提供し、心と体の健康につなげること。大学生には、マルチステージを実行し、人生 100 年時代を生きるために必要な認識を得てもらうこと。そして実際に生きていってもらうこと。小学生には、支えあいを理解し行動してもらうことを目的とした。さらに、これら 3 つの目的を達成するために、二段階に分けた目標を設定し、具体的な場や機会を設定・運営しつつ、研究を進めた。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

人生 100 年時代という言葉は、ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン氏による。氏によれば、人生 100 年時代は、現在の「教育・仕事・老後」という 3 ステージの単線型の人生ではなく、マルチステージの人生になるという。政府も、人生 100 年時代を見据えた新たな経済・社会システムを実現するための「人生 100 年構想会議」を開いている。

いずれ将来、人生 100 年時代は現実になる。実際に人生 100 年時代を生きていくことになる我々大学生は、将来に対する不安も多いが、そうした時代の生き方に関し、実感を伴った確かな認識を持たねばならない。

今実際に高齢者として暮らす世代の意識や課題も探ってみた。高齢者にヒアリングを行ったところ、社会的健康の不足が問題のひとつであることがわかった。社会的健康は、信頼関係を持ち、自分の役割を持って、何らかの形で社会に貢献していることから得られる。参加する一人ひとりが役割を持った交流の場をつくることで、社会的健康づくりの一助になりたいと考えた。

ふじみ野市教育長の朝倉孝様にもお話を伺った。「小学生も高齢者との交流を体験することが大切」とのご意見で、実際に高齢者からも「小学生と関わりたい」という声を聞いた。そこで、小学生も含めた 3 世代による交流の場を実現していくことにした。

そこで私たちは、①大学生がマルチステージの人生を送るようになる将来に向け、単線型ではない多様な人生の再設計を考えるきっかけの場を我々大学生自身に提供するため、②高齢者が社会的健康を高めていけるよう、参加する高齢者全員が主体的に貢献できる場をつくるため、そして、③小学生に高齢者との交流体験をつくるため、活動を行うこととした。具体的には、埼玉県ふじみ野市で世代間交流の場をつくり、運営し、効果を確認する活動を展開した。ふじみ野市には文京学院大学のふじみ野キャンパスがあり活動しやすいことや、NPO 法人ふじみ野明るい社会づくりの会の協力を得ることができたためである。草野(2004)によれば、「世代間交流とは、子供・青年・中・高年世代の者がお互いに自分達の持っている能力や技術を出し合って、自分自身の向上と、自分の周りの人々や社会に役立つような健全な地域づくりを实践する活動で、一人一人が活動の主役となることである」と述べている。

3. 研究テーマの課題

世代間交流を展開するうえで、今回取り上げた 3 つのターゲットそれぞれにテーマがある。高齢者には、社会的役割を果たせる場を提供し、参画してもらうことで、社会的健康不足を解消し心や体の健康につなげていってもらうこと。大学生には、高齢者との関わりの中で人生 100 年時代を実感として認識する場を提供し、多様化するマルチステージのキャリアと人生について考えてもらうこと。そして実際に人生 100 年時代のキャリアを生きていってもらうこと。小学生には、様々な世代がお互いに支え合っている現場に触れ、人生 100 年時代を将来考えていくにあたっての原体験となるような経験を提供すること。本研究の目的は、これら課題の解決に効果的な手法をつくり出し、実施展開し効果を確かめていくことである。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

これらの課題を解決する 3 世代間交流の場をつくるにあたって、我々は「ノーケア・ケア」というコンセプトを掲げた。「ノーケア・ケア」とは、社会的健康を目指し、参加者それぞれが役割をもち、一人一人が活動の主役になる場やその活動のことである。専門にケアをする人はおらず、ケアする人とされる人がその時々で入れ替わっていくような場のイメージである。

参加する高齢者一人ひとりに役割を与え、支え合いが可能になると、若い世代に対し人生経験を伝えること等で、高齢者自らの存在意義を見出すことができ、社会的健康につなげることができると考えた。大学生に対しては、高齢者と関わる中で高齢者の人生のロールモデルを学ぶことが、将来を考えるきっかけになるだろう。また、小学生に対しては、高齢者と大学生が支えあっている「ノーケア・ケア」の場を子供時代に目にすることで、支え合いの在り方を無意識のうちに感じ、理解してもらえるだろう。それが、将来自らに働きかけるきっかけとなり、豊かな人生 100 年時代を生きていってもらえればと考えた。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

具体的な活動内容を述べる。「ノーケア・ケア」の活動の場をふじみ野市の「駒林区画整理記念館」に定め、高齢者・大学生・

小学生を集めて、イベントを含め三回の世代間交流活動を行った。第一回目（8月4日）の世代間交流では、午前中に大学生と高齢者でちらし寿司を作り、午後には小学生も含めた浴衣の着付け体験や昔遊び、現代遊び(TikTok、ダーツ)を行った。料理や着付けが得意な高齢者が不得意な大学生に教え、現代遊びを知っている大学生が知らない高齢者へ教えるなど、相互に役割を果たした。このように、各々が主役になることで「ノーケア・ケア」の場を作ることができたと考えられる。第二回目（9月1日）の世代間交流では、午前中におはぎを作り、その後討論会を行った。また、「働くとは」について討論会をし、高齢者の人生のロールモデルを具体的に学ぶことができたと考え。午後は一回目同様、昔遊び、現代遊びをした。参加者は毎回60名以上に上った。イベント終了後、各世代にアンケートを行った結果、「自分の得意分野を教えることができてよかった」「多くのことを学べた」といった意見が得られた。よって高齢者と小学生に対しては、図-1の目標・1を実現する大変に有効な場となった。

しかし、イベント後、大学生に「人生100年時代を意識した上で自分の将来の考えに結びつきましたか」というアンケート調査を行ったところ、参加者の7割が「いいえ」と答える結果となった。そこで、大学生に対しては、世代間交流で得た体験的な知識をお互いに表出しながら共有化し、共に考える場づくりが必要だと考え、学生主体の「世代間交流を通して、未来について考える」をテーマにした自主授業を企画し、実施した。内容としては、KJ法を用いて「自分たちの未来をどのようにしたいか」を話し合い、お呼びした先生方に発表を行い、先生方から評価をいただくという流れで行った。そして、授業後に世代間交流後と同じアンケートを行ったところ、参加者全員から人生100年時代への意識づけと将来の考えが結びつくことができたという回答を頂けた。これにより目標・1と目標・2を達成することができた。

我々のこれら一連の活動は、2018年8月28日（火）の東京新聞に、「交流で高齢者支援、NPOと大学生新たな試み」という6段組の記事で掲載された。活動が一定の社会的評価をいただいたものと考えている。

6. 結果や今後の取り組み

今後の取り組みについてである。10月28日に第3回目の世代間交流を実施する。具体的な活動内容は、ハロウィンパーティーと称し、高齢者から大学生と小学生に教える、絵手紙、茶道、などを行う予定である。また、内容は未定だが、12月9日に第4回目のイベントを行う。来年以降は、毎月第2日曜日にこの活動を行うことが決定している。ふじみ野市だけではなく全国的に広めることを今後視野にいれ、活動していく予定である。また、自主授業は、来年度から本学の教育プログラムの中に取り入れ単位化する方向で、現在各学部や大学当局に調整中である。こうして活動の波が大きくなれば、参加者も増え、より充実した実証データを得ていくことが可能になるだろう。人生100年時代にふさわしい長期的な視野で、地に足のついた意味ある研究としていきたい。

7. 参考文献

- リンダ・グラットン(2016).『LIFE SHIFT - 100年時代の人生戦略』東洋経済新報社.
- リンダ・グラットン,星井博文(2018).『まんがでわかる LIFE SHIFT』東洋経済新報社.
- 荒山直子,伊藤常久,伊藤弓月,犬塚剛,植草章三,河西敏幸,坂本譲,島貫秀樹,高戸仁朗,芳賀博(2007).地域在宅高齢者の介護予防推進ボランティア活動と社会・身体的健康およびQOLとの関係.
- 和泉徹彦(2017).全国消費実態調査に基づく高齢者世帯消費支出の分析.
- 浦川安宏,西道彦.(2011).公的年金と高齢者の就業.
- 沖中由美(2017).ひとりで暮らす要支援・要介護高齢者の老いの生き方.
- 木元浩一(2018).最低保障年金の給付水準に関する一考察.
- 草野篤子(2004)「超高齢化社会における世代間交流モデルの研究」- 高齢者による児童・生徒への教育支援プログラムの開発 -
- 清澤涼介(2018).新たなキャリア教育観を柱とした学校づくり-「人生100年時代」を見据えて-
- 香山リカ.高齢者の「こころの健康」について考える-4 国調査からみる日本の高齢者の心理的健康-
- 佐藤典子(2017).超高齢社会日本の現状 - 長生き社会日本とケアの実情 -.
- 綿貫登美子(2014).多様化する高齢期のライフスタイルと生きがい- 高齢者の状況に配慮した就業促進と能力活用の取り組み.
- 村山陽(2018).地域における世代間交流の可能性と課題.

本庄美佳(2018).「人生 100 年時代」の「ポスト平成」ライフスタイル展望.

吉津晶子.溝邊和成(2017).世代間交流の教育的意義に関する研究の動向と課題.

ガーベジニュース(2018).『日本の平均寿命の推移をグラフ化してみる』

<http://www.garbagenews.net/archives/1940398.html> (2018 年 7 月 2 5 日アクセス).

ガーベジニュース(2018).『日本の平均寿命は世界的に見て長い方?…平均寿命の国際比較をグラフ化してみ

る(最新)』<http://www.garbagenews.net/archives/2076137.html>(2018 年 8 月 5 日アクセス).

日刊工業新聞 ニュースイッチ(2017).『リンダ・グラットン教授が語る「100 歳社会へのライフ・シフト」』

<https://newswitch.jp/p/7593-2> (2018 年 6 月 22 日アクセス).

日経マネー(2018). Money interview(43)リンダ・グラットン 英ロンドン・ビジネススクール教授 人生 100 年が当然

の時代 貯蓄して自分に投資しマルチステージの人生を楽しむ.

「昭和 55 年度 国勢調査」人口等基本集計.2007 年 10 月 5 日公表.

(https://www.estat.go.jp/statsearch/database?page=1&toukei=00200521&kikan=00200&tstat=000001008776&result_page=1&second=1 (2018 年 5 月 10 日アクセス).

「平成 27 年度 国勢調査」人口基本集計.2016 年 10 月 26 日公表.

(<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2015/kekka.html>)(2018 年 5 月 10 日アクセス).

「平成 28 年度 厚生年金保険・国民年金事業の概要」2017 年 12 月公表.

(<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12500000-Nenkinkyoku/H28.pdf>)

(2018 年 6 月 18 日アクセス).

「平成 28 年度 市民の社会貢献に関する実態調査」ボランティアについて、2017 年 3 月 21 日公表

(<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/shiminkouken-chousa/2016shiminkouken-chousa>)(2018 年 6 月 20 日アクセス).

「厚生労働省 健康日本 21」休養・こころの健康 https://www.mhlw.go.jp/www1/topics/kenko21_11/b3.html

(2018 年 6 月 26 日アクセス)

「平成 27 年介護現場のために自立支援センター」高齢者の自立支援ってなんだろう? 桑名市中央地域包括支援センター

(<http://www.city.kuwana.lg.jp/index.cfm/24,47596,c,html/47596/20160126-185708.pdf>)

(2018 年 7 月 25 日アクセス).

「平成 29 年度 高齢者の健康に関する調査結果」平成 30 年 3 月公表

(http://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h29/gaiyo/pdf/sec_2_3.pdf)(2018 年 9 月 19 日アクセス)

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経 BP マーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限り。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください